



特集

身体が冷えやすい冬季にこそ注意を!

スポーツ外傷、その予防とケア

- 医心伝心～医の最前線から～
- ナースフェイス 素顔の看護部
- 家庭で役立つ! お薬の知恵袋
- 気軽にお体メンテナンス
早期のチェックで病気にチャック!
- シリーズ 清恵会三宝病院
病院転院でリハビリテーションの対応はどう変わる②
- 学院だより
地域医療の未来を支える若き力
- 清恵会グループ通信
清恵会三国丘クリニック

東京に続いて、2011年には大阪でも国際マラソン大会が開かれるように、昨今のランニング・ブームは全国のあらゆる世代に広がっています。特に冬場は、夏場のように熱中症等の心配がなく、競技として、また趣味として、ランニングのほか野球やサッカー、テニス、スキー等を存分に楽しむ人々も多いことと思われます。しかし、冬は身体が硬くなり、ケガをしやすいつ時期でもあります。

清恵会病院では、スポーツによるケガを専門的に治療する「スポーツ整形外科」を設置。スポーツ特有のケガや治療、競技復帰までのサポート体制をご紹介します。



特集

身体が冷えやすい冬季にこそ注意を！

スポーツ外傷、その予防とケア

小松 猛

清恵会病院 整形外科 スポーツ整形外科部長
日本整形外科学会整形外科専門医
日本体育協会公認スポーツドクター

1992年近畿大学医学部を卒業後、大阪市立大学整形外科へ入局。国立大阪病院、大阪市立総合医療センター等を経て、'04年に当院へ。'03～'09年までJリーグ・セレッソ大阪のチームドクターを担当。

冬季の運動時には、 準備運動不足の ケガに注意！

スポーツのケガというと、さまざまな症状があります。これを大きく分けると、スポーツ障害とスポーツ外傷という2種類のケガがあります。

スポーツ障害は、例えば毎日のランニングでアキレス腱の周辺が痛くなる、野球のピッチャーがボールを投げ過ぎてヒジが痛くなるなど、同じ部位を使い過ぎて起こる故障のことです。これは、「使い過ぎ(オーバーユース)によるケガ」とも呼ばれます。

一方、スポーツ外傷は、ジャンプした際に足首をひねる、ダッシュした際に肉離れを起こすなど、突発的なケガのことです。

スポーツ外傷は、肩・腰・ヒザや足首などの下肢と、故障する部位が大体、決まっています。特に下肢は運動の基本ですから、サッカーやラグビー等のフットボール種目を筆頭に、陸上種目やスキーなど、あらゆるスポーツでケガをし易い部位です。腰のケガも幅広いスポーツで起こりますが、ゴルフや体

操、野球など体幹の回旋や前後動をよく行う競技に多い印象です。肩は、野球やテニス、バレーボール、格闘技が多いですね。

症状はさまざまで、骨折やヒザの靭帯断裂、アキレス腱断裂は、手術が必要です。肩の関節唇損傷、反復性脱臼、腱板損傷、重度の椎間板ヘルニア、腰椎分離症、ヒザの半月板損傷なども手術する場合があります。肩の関節唇とは、関節窩(かんせつか)という肩甲骨の関節を縁取っている部分にあり、関節の安定化とクッションとして円滑な動きを助ける組織です。ヒザでは、半月板が同様の組織にあたります。

スポーツ外傷は、プレー中の激突や、反復性肩関節脱臼のように一度発症した肩の脱臼が癖になって再発する場合など、さまざまな

要因で起こります。ケガの種類にもよりますが、一般の方は、体が運動による負荷に耐えられずに起きる場合もあります。

特に冬場は、体が冷えることによつて筋肉や腱が縮み、硬くなっています。プロ選手や体育クラブの学生などのアスリートは、普段から運動に慣れており、活動前に入念なウォーミングアップを行うため季節に影響されることは少ないのですが、一般の方にとってはケガをしやすい季節といえます。主に、太ももやふくらはぎの肉離れ、各筋肉の炎症といった筋肉系のケガ、またヒザや足首の靭帯・腱のケガなど急激なステップやターン、ダッシュによる下肢のケガが多いですね。特にアキレス腱は、中高年の場合には意外と簡単に断裂するので、どのスポーツをする際にも注意が必要です。

競技選手も趣味の人も、 入念な準備運動と 筋力強化が、 スポーツ外傷を予防する

サッカーやラグビー、バスケットボール等、対人プレーの中で足が

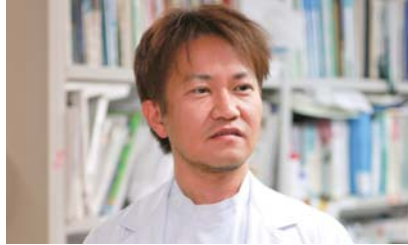
引つかかったり、衝突したりするなど、事故によるスポーツ外傷は、防ぎられるものではありません。ただ、ランニングやターン、ダッシュ、打球など個人の動作によるスポーツ外傷は、ある程度予防する方法があります。

その方法は簡単で、入念な準備運動を行い、体を温め、筋肉や腱を十分に伸ばすことに尽きます。例えば、ヒザを伸ばして体を前に倒し、腰や太ももの筋肉を伸ばす。片方の足を前に出し、後ろ足の足裏全体を地面に着けて前へかがみ、アキレス腱を伸ばす。肩の場合は、肩甲骨を何度も回す。片方の腕のヒジを伸ばし、その腕にもう片方の腕を引つけて内側に絞り、肩関節や肩甲骨周囲の筋肉を伸ばす。その他、各種目に応じたストレッチがありますので、運動前にしっかりと行ってください。軽いランニングも良いですね。

準備運動の注意点としては、急激に伸ばしたり、動かしたりしないことです。最初はゆっくりと行い、体を運動に慣れさせる。また、ストレッチは、単にその動作をするだけでは意味がなく、自分の限界まで、じっくりと伸ばしきることが大切です。最近では、若い方も

スポーツ外傷、その予防とケア

● スポーツ外傷の連携体制 ●



清恵会病院 整形外科 手外科部長

寺浦 英俊

1993年、山口大学医学部を卒業。大阪市立大学医学部附属病院、長吉総合病院等を経て、'01年に清恵会病院へ入職。

専門の診断・手術をもとに 指・手のスポーツ外傷を担当

手外科では、特に指や手関節の骨折や靭帯損傷を担当しています。舟状骨骨折を含め、初診時にはX線やCT、MRIによる的確な診断を行っています。手術は関節鏡視下手術も施行しており、患者様の早期復帰を目指しています。



清恵会病院 理学療法科 科長

水下 和也

1993年、清恵会第二医療専門学院理学療法士科卒業後、清恵会病院第二分院へ入職。'10年、清恵会病院理学療法科科長に就任。

医師と連携したりハビリで 早期のスポーツ復帰を支援

当科では、手術後の早期からリハビリを開始し、筋力低下を予防。メンタルサポートや再発予防の訓練も行っています。手術直後・外来とも、医師と密接に相談し合い、患者様の状態に合わせながら早期のスポーツ復帰を支えています。

関節鏡を使うと体内の奥の状況まで見えますし、低侵襲手術は術部周辺の骨や筋肉を傷つけない心配がありません。そのため、肉眼では見えにくい部分の障害も発見できますし、手術で影響する範囲が狭いので早期の回復が可能です。特に、前述の関節唇や半月板などは、軟骨状の柔らかい組織で傷つきやすいため、患者様の競技復帰を考えると、できるだけ手術の影響を抑える必要があるのです。

腰痛、足首の捻挫など手術の必要がないケガや、中にはアスリートで手術を希望しない方もいます。その場合は、薬物投与による

痛みの軽減とケガ周辺の筋肉強化を組み合わせながら回復させていく保存療法を行っています。

リハビリの開始が遅くなれば、筋力低下を招きます。そのため、一般の外傷に比べて、リハビリを開始する時期のさじ加減が難しく、リハビリのメニューにもきめ細やかな内容が求められます。

体の硬い人が増えていますが、ストレッチで限界まで伸ばさないとケガをするケースもあります。ランニングも、走り始めは普段のペースよりもスピードを落とした方が安全です。特に、長い間運動をしていない30〜40代の方は、若い頃のイメージで急激に動き出して、ぎっくり腰や肉離れを起こすことが多いので、準備運動は入念に行ってください。

ケガの予防という点では、普段からの体作りも重要です。体を作る、鍛えるという重いベンチプレスを持ち上げるイメージがありますが、最近では腰のコアマッスルや肩

清恵会病院のスポーツ整形外科では、スポーツ外傷とスポーツ障害の患者様を専門的に診療しています。また、当院の整形外科には、脊椎・脊髄、手外科という専門の診療科がありますので、腰や指先など、ケガの部位や症例によっては、これらの科と連携しながら診療にあたっています。



のインターマッスルが重視されています。肩はチューブを使って軽い負荷で力を入れる、腰は右手と左足を一緒に上げるなど、さまざまなトレーニングがあります。これらのトレーニングは激しい運動ではありませんし、健康の観点からも実践してみてもいいのではないでしょうか。

患者様は、アスリートや学校のクラブ員、一般の方とさまざまです。診療は、救急の場合もあります。ケガをして数日たつてから来院されます。

復帰時期を決定しています。また、ケガで大切な試合に出場できなかったり、以前のようなプレーができなくなったりするケースもありますので、治療だけでなくメンタル面のケアも行っています。

「肩関節反復性脱臼」による
「肩関節形成術後（バンカート修復術）」



肩甲骨関節窩(かんせつか)から剥離した関節唇(写真左)に対して、スーチャーアンカーを用いて関節鏡視下で修復(写真右)。肩関節の安定性が獲得され、繰り返し脱臼していた症状は改善された。

手術を行うのは、肩の関節唇や腱板、ヒザの半月板や靭帯の症例が多く、これらの場合は内視鏡の一種である関節鏡を使用した低侵襲手術を行っています。低侵襲手術とは、関節に小さな穴を開け、そこに直径5mm程度の管を通して、断裂した腱をつないだり、組織を形成したり、剥がれた関節唇を元の位置へ修復するバンカート修復術など、さまざまな手術を行う術式です。

🏠 私たちがサポートします。
ナースフェイス

～素顔の看護部～

仕事のやりがい?

患者様が快方に向かっていると実感した時です。退院される時はもちろん、寝たきりの患者様がリハビリによって車椅子に座れるようになった時、また絶食の患者様がご飯を食べることができるようになった時なども、看護師としてのやりがいを感じますね。

患者様と心が通じたと実感した瞬間は?

当院を退院された患者様が再入院された際に、「この看護師さんなら安心です」と言われた時です。また別の再入院された方のご家族から、「退院後も家であなたの話をしていたよ」と伺った時です。良いコミュニケーションが取れていたのかなとうれしい気持ちになりました。

普段から心がけていることは?

小さな事ですが、勤務の時は毎回、患者様に「担当の平田です」と元気に挨拶をすることです。忙しい時は、時折、できていない時もあるので、完璧にできるように心がけたいと思います。また最近では、ご家族とも積極的にコミュニケーションをとるように意識しています。



西3F病棟 平田 珠実さん

Profile
 2007年入職。リラックス方法は仲の良い友人と思い切り遊ぶこと。



外来病棟 井上 艶子さん

Profile
 1978年入職。看護技術と「人を笑わせることが好き」という人柄への信頼感は絶大。趣味はウォーキング。

看護師になったきっかけは?

子どもの頃、私の母親は体が弱く、入退院をくり返していました。通院の際には、私も一緒にかかりつけの病院へ行くことがありました。そこで、看護師さんの人を助ける仕事を実際に見て、私も大きくなったら看護師になりたいと強く思ったことがきっかけですね。

患者様と心が通じたと実感する瞬間は?

患者様との会話の中に、ご家庭やご家族での話題が出た時ですね。心を許す相手でないかと家での話はしませんからね。心を許していただくために、高齢者の方には説明をくり返すなど、常に相手の立場で物事を考え、また言葉遣いにも気をつけながら患者様と接しています。

看護師としての強みは?

笑顔で、誰とでも分け隔てなく接する明朗活発な性格です。また、努力する姿勢も強みでしょうか。私は、今も研修に参加して学び、分からないことは自分で調べたりしながら看護師としての向上に励んでいます。そうして、健康で、ずっとこの仕事を続けていきたいですね。



清恵会三宝病院 院長 齊藤 治

Profile
 1954年生まれ。'79年に大阪医科大学を卒業。同大学第二内科へ入局。米国のラホヤ癌研究所留学を経て、'02年に清恵会第二分院院長となる。'04年に現職へ就任する。内科、老年医学、消化器病の専門医であり、リハビリ学会・透析学会会員。大阪医科大学臨床教育教授も務める。

医心伝心 #03
 ～医の最前線から～

院長として、総合内科医として、充実した体制と心の向上に努め、患者様の在宅・社会復帰を支える。

現場の第一線に立ち、患者様を支援し続ける

当院は、療養病床に回復期リハビリテーション病棟、総合リハビリテーションセンター、人工透析センターを備えた複合型慢性期機能病院です。急性期を引き継ぐ回復期の医療を中心に、外来の内科、整形外科、人工透析の診療を行うなど、患者様の幅広いニーズに対応しています。

特に、医療法人清恵会の創設期から取り組むリハビリテーションと人工透析には力を入れており、回復期リハビリテーション病棟では脳血管疾患等の患者様への集中的なリハビリを行っています。

また人工透析では、シャント造設術や経皮的血管形成術という血管の造設・形成のエキスパートが在籍しており、入院による維持透析や外来透析、透析導入と、トータルにケアできる透析医療体制を整えています。

私は院長ですが、内科、消化器、老年医学の専門知識を持つ総合内科医として臨床現場にも立っています。内科医と老年医学の見地からは、高齢の患者様への投薬には非常に気を遣っています。多くの医薬品の投与量や有効性は、65歳以下の人を対象とした治験で証明されたものです。そのため腎機能や肝機能が低下された高齢者の方には、個人差も考えながら慎重に投与量を決定する必要があります。

医療とは、人が本来持つ生命力や回復力が十分に発揮されるように医学的に「支援する」ものだと私は考えています。そのため現場では、患者様の命に加え、心や生活にも向き合うことを重視しています。そうしてスタッフ全員で協力しながら、患者様も私たちも納得できる医療を提供する。その結果、患者様の在宅・社会復帰を実現できた時には大きな達成感があります。

仕事を離れた時間は、なるべく家族と過ごすようにしています。散策や寺社巡り、食べ歩きのほか、息子とは釣りなどにも出かけます。特に、地方の寺社で日本伝統の自然に触れると、心が和みますね。

私は宗教心が特に強いわけではありませんが、最近、お経にある「我行精進 忍終不悔（がぎょうしようじん にんじゅうふけ）」という言葉に感銘を受けました。これは苦難に耐え、自分の務めに全力で取り組んでいれば悔いがないという意味です。その教訓は、仕事や人生にも当てはまります。私も医師として人として、一日一日を前向きに、大切に過ごしていきたいと思えます。

仕事も人生も一日一日を悔いなく過ごしたい





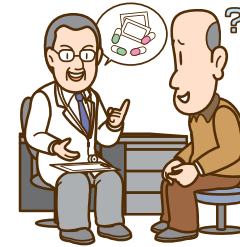
状態が良くなれば、 薬の服用をやめてもいい？

家庭で役立つ！ お薬の 知恵袋

患者様の自己判断で薬の服用をやめると、リバウンドを起こす場合がありますので、必ず医師の指示を守ってください。たとえば、高血圧症の患者様の場合、「薬を飲んでいてと血圧が落ち着いてきたので、服用をやめた」という話を聞きます。しかし、症状の緩和は薬の効用であって、服用をやめると再び血圧が上がってきます。もちろん、飲む回数を減らすのもいいかもしれません。

今回は、その他の自己判断による間違いについてご紹介します。

- 1 1日3回服用する薬だけど、昼は仕事が忙しくて朝と夕方のみ飲んでいる。
このケースも、指示通りの服用が必要です。ただ、症状によっては、1日1回服用の薬が数種類あります。そのため、一日に複数回薬を飲むのが難しい方は、ご自身の生活環境を含め、薬の処方について医師に相談してみてください。
- 2 指示通りに服用していないのに、診察時は「きちんと飲んでいる」と医師に言っている。
薬の服用指示を守っていないことで、検査データが良化を示さず、さらに薬の量や種類を増やす場合があります。これは薬の過剰摂取になりかねませんので、主治医との意思疎通はきちんと行ってください。
- 3 薬があるので、運動療法や食事療法は気にしていない。
薬は病を治す手助けをするものです。疾患によって違ってきますが、バランスの取れた食事や適度な運動、また過労等を避けた日常生活など、生活態度の見直しがあってこそ、薬によって病が治ることを忘れないでください。



早期のチェックで
病気にチャック!

気軽に心臓メンテナンス

第二回 心臓超音波検査(心エコー)

超音波で心臓を観察し、
病気や異常の有無を診断

何を調べる検査ですか？

心臓は、全身に血液を送るポンプの働きをしており、左心室、右心室、左心房、右心房という4つの部屋と、血液の流れを正しく保ち逆流を防ぐ機能を持つ4つの弁からなっています。この心臓に専用機器で超音波を当て、反射してきた超音波信号によって画像を作り出します。この画像をもとに、心臓の大きさや動き方、筋肉・弁の状態、血液の流れなどを観察する検査です。心エコーによって、ポンプ機能が正常に動いているかどうか、心臓肥大・弁膜症・心筋梗塞・先天性奇形等の有無を診断することが可能です。

なっていたいただきます。その状態のまま、検査が超音波を出す探触子を押し当てながら、いろいろな方向から心臓を観察していきます。観察時は、肺や骨(肋骨など)の影響を避けるために、息を吸ったり、吐いたり、5秒ほど息を止めたりしていただきます。所要時間は、30分程度です。

また検査にあたって体にゼリーを塗りますが、これは体の害になるものではありませんので、ご安心ください。

検査時の注意点は？

特にありません。食事の制限はなく、薬を飲んでいる方も処方通りに内服してください。検査中は、30分近く体を横に向けた状態になります。もし、体が痛くなったり、しびれたりした場合は、遠慮なく検査者にお伝えください。

検査の方法は？

被験者の方は、上半身裸になり、ベッドに体の左側面を下にして横



シリーズ 03 清恵会三宝病院

急性期病院からの密接な情報提供とリハビリ対応も完全予約の個別対応 の対応はどう変わる②



三宝病院のリハビリは、
笑顔で楽しく取り組める！

今回は、当院の患者様へのインタビューをご紹介します。
この患者様は、急性期病院で2度の手術を受けた後、当院へ転院されました。退院後の現在は、自宅から週に3回 当院へ外来通院して上肢の機能回復に励んでおられます。

— 当院へ転院される時は、どのようなお気持ちでしたか？

急性期病院に入院していた私は、身体が全く動かない状態で、ひどい頭痛も抱えていました。ですから、「今は、この病院を離れたくない」という気持ちでした。でも、その病院では十分な回復期リハビリを受ける事ができませんでした。ま

た、私が信頼していた主治医の先生から、「三宝病院以外の病院なら、ここに居る方が良い」と思います。しかし、三宝病院さんは、何かあれば、すぐにうちと連絡が取れるので、安心して行きなさい」と推薦されて、転院を決意しました。

— 当院のリハビリを受けてどのような印象を抱きましたか？

最初に感じたのは、リハビリ環境の良さです。私は理学療法(PT)と作業療法(OT)を受けていますが、PT室とOT室はつながっているので移動がすごく楽です。PT室は、リハビリ用のベッドや専門機器が数多く置かれています。でも、スペースは広々として動きやすいので、歩行練習なども伸び伸びと行うことができます。OT室は、家庭的な雰囲気です。落ち着いてリハビリに取り組むことができます。

三宝病院には内科と整形外科の設備もあります。どちらかの診療科の先生が主治医として付いて下さるので、安心してリハビリに臨むことができました。

— リハビリのスタッフとの関係は、いかがですか？

皆さん優しく、私の担当ではないスタッフの方も、よく話しかけて下さいます。こういう交流がある



と、すごくうれいすし、心も和みます。実際のリハビリは、スタッフの方との1対1で会話しながら行われるので、すごく楽しいです。つらく苦しいといった感じはほとんどなく、リハビリ室では周囲からもよく笑い声が上がっています。

— その他、病院やリハビリについて感じた事を教えてください。

私は、体の動かない状態でこの病院へ来て、今はかなり体が動くようになりました。これは先生方の熱心なリハビリ指導のお陰です。リハビリはすごく重要だと実感しています。急性期病院の先生も「安心して患者を任せられる。三宝病院に転院させて良かった」とおっしゃっていました。私も、この病院に来て本当に良かったと思います。これからも、「笑顔いっぱい！ 楽しいリハビリ病院」であり続けて欲しいです。

清恵会グループ通信③

清恵会訪問看護ステーション



真心こめた看護とリハビリ ステーションで住み慣れた 地域での在宅生活を支援

当ステーションは、病気や障害により療養生活の支援が必要な方へ、看護師・理学療法士・作業療法士がご自宅を訪問して看護サービスを提供しています。清恵会病院や清恵会三宝病院をはじめ地域の病院・医院との連携をとりながら、利用者様のニーズにお応えできるように努力しています。

【営業時間】月曜日～土曜日(午前9時から午後5時)
※日・祝日、年末年始はお休みです

知識・技術の向上を 目指しています

清恵会グループの勉強会や外部機関の研修など、看護師やリハビリテーション部門とのミーティングを定期的開催。利用者様に満足いただけるサービスの提供を目指して、知識と技術の向上に努めています。



安心の在宅生活を 過ごして頂くために

お体の状態観察等の際は、スタッフがありのままの利用者様に向き合いながら、日常生活の助言を行います。利用者様それぞれの思いや環境を大切にすることで、より安心して快適な在宅生活を支援しております。



充実の訪問リハビリを 実施しています

障害を持つ利用者様には、理学療法士・作業療法士がお宅へ訪問。利用者様とご家族が住み慣れたご自宅で快適に過ごしていただけるように、リハビリ訓練や住環境整備への助言を行っております。



地域医療連携部より

救護支援、講演会、救急蘇生法講習会、など 無料で講演を行います!!

清恵会病院では、地域の皆様との積極的なふれあいの一環として、講演会・運動行事に対する救護支援・人形を使っての救急蘇生法講習会(堺市消防局より終了証発行)などを無料で実施致しております。ご要望がございましたら遠慮なく、下記担当窓口までご依頼下さい。



ご依頼
募集中

清恵会病院
地域医療連携部 地域連携室

電話 072-251-8199 (内線1413) 8:30~17:00(月~土曜日)
メール s-icls@seikeikai.or.jp

誓いを新たに… 感動の戴帽式を開催



地域医療の未来を支える若き力
学院だより

清恵会医療専門学院
清恵会第二医療専門学院



去る11月19日、清恵会医療専門学院にて准看護学科36期生31名の「戴帽式(たいぼうしき)」が行われました。多数のご来賓やご家族、教職員が見守る中、学生たちはナースとしての第一歩を踏み出しました。式典では、壇上で一人ひとりの学生が純白のナースキャップを授与され、厳かな音楽を背に、灯火したキャンドルを抱いて会場を回りました。キャンドルは、かのナイチンゲールが夜もロウソクの灯で看護し

た事から、病める人に希望を与える看護精神の象徴とされています。その光がゆらめく中に誓った学生たちによる「わが任務(つとめ)を忠実に尽くさん」とのナイチンゲール誓詞は、心に残る力強さに満ちていました。訓示では、宮崎瑞夫院長が、「白衣姿に変身され、見違えるようです」と挨拶。また医療人の要件として「安全性」「専門性」「人間性」を挙げ、「自分の職業に誇りと責任を持って取り組んで下さい」と激励の言葉を送りました。学生には、この日の感動を忘れず、素敵なナースに成長して欲しいと思います。



平成
23年度

入学試験願書受付中!!

平成23年度入学生募集中です。医療法人清恵会の全面バックアップ。安心・充実のカリキュラムで社会に貢献できる医療人を目指してください。

詳しくは
WEB&携帯で



清恵会医療専門学院

第1看護学科/第2看護学科/准看護学科

清恵会第二医療専門学院

理学療法士科/放射線技師科

<http://gakuin.seikeikai.or.jp>

清恵会グループのご紹介

+ 清恵会病院

〒590-0024 大阪府堺市堺区向陵中町4丁2番10号
TEL.072-251-8199

+ 清恵会三宝病院

〒590-0903 大阪府堺市堺区松屋町1丁4番1号
TEL.072-226-8131

+ 清恵会向陵クリニック

〒590-0024 大阪府堺市堺区向陵中町6丁2番11号
TEL.072-251-8199

+ 清恵会三国丘クリニック

〒590-0024 大阪府堺市堺区向陵中町6丁4番10号
TEL.072-251-8199

+ 清恵会訪問看護ステーション

〒590-0024 大阪府堺市堺区向陵中町4丁4番4号
TEL.072-257-6074

+ 清恵会医療専門学院

〒591-8031 大阪府堺市北区百舌鳥梅北町2丁83番地
TEL.072-259-3901

+ 清恵会第二医療専門学院

〒590-0026 大阪府堺市堺区向陵西町4丁5番9号
TEL.072-222-6226

当院は2010年6月に「病院機能評価・一般病院ver6」の認定を受けました



医療の質の向上のために取り組んでいるさまざまな問題を第三者機関である社団法人「日本医療機能評価機構」様に評価して頂き、今後の方向性の明確化及び患者様本位のチーム医療を築いていくための「礎」とするべく、2009年12月に審査を受けた結果、認定証を授与されることができました。

清恵会グループWEBサイト更新情報

糖尿病情報コーナー、広報誌「ふれあい」閲覧コーナー、看護部サイトなど誕生しました。その他最新情報もコチラから。



糖尿病情報コーナー



広報誌「ふれあい」



看護部サイト

清恵会

検索

<http://www.seikeikai.or.jp>